

第5期介護保険事業計画策定について



三宅 利弘
(21 政会)

問 わが国は、超高齢化社会を迎えようとしている。平成12年度より介護保険制度が導入され、同時に策定された介護保険事業計画は、平成23年度末で第4期を終わろうとしている。現在、第5期介護保険事業計画を策定中だが、①保険料の値上げはあるのか、②保険料の軽減措置について、③介護施設整備について、どのように計画するのか。

答 ①介護保険制度において、計画期間中に必要な保険料は当該計画期間において賄うという仕組みになっています。したがって、サービス利用が増大し介護給付費

が増加すると、保険料も増大していく仕組みになっています。加西市でも今のところの試算では、4,800円ほどの数値になり、幾らかの上昇は避けられないと思っています。

②保険料の軽減については、保険料の段階別を設定を従来7段階でありましたものを第4期では8段階にし、第5期では9段階にして、低所得者に配慮した保険料の体系を考えています。また、県に設置されている財政安定化基金の一部を取り崩し、市町村に交付することにより保険料を抑える方針が示されています。

③加西市として介護施設の整備をどうしていくかについては、事業者も含めた市民の皆さんがどう思われているかが一番大事だと思っています。方向性としてはおおむね一致した方向に向いてきていま

す。最終的な議論の延長で、同じ結論を得ていければいいと思っています。最終議会との意見交換を通じてそれぞれの思いが一致し、策定委員会の結論がそういう思いを受けたものになればと思っています。



引き出そう！ふるさと加西の魅力



深田 真史
(新政会)

問 大正4年につくられた青野原俘虜収容所は、当時の建物の一部が現存する日本で唯一の収容所。平成14年に加西市が600万円の予算を投じて、当時の将校用兵舎を解体・保管しているとのことだが、今後の活用は。

答 特段の活用計画がないというのが現状です。観光資源等どのような活用が可能か、財政面での対応など協議して、今後の活用のあり方を検討していきたいと考えています。

問 播磨国風土記は平成25年、編纂を命じられてから1300年という記念すべき年にあたる。

古代からの豊かな歴史文化を、全国に向けて情報発信し、観光誘客を図るチャンス。播磨地域内の自治体と協力して、地域活性につながる取り組みについての考えは。

答 播磨国風土記が播磨全域、賀茂郡が加西市を含む北播磨であることから、県や近隣市町とともに取り組んでいく必要があると考えております。他に先駆けて、取り組みを打ち出すことで、1300年イベントにおけるイニシアチブをとれると考えています。

問 播磨国風土記は、自分の住んでいる地域の事柄、身近な内容で、子どもたちの教育に取り入れて生かすことができれば、他市には真似できない教育ができる。郷土愛を育む教材として、小学3、4年生の社会科の授業に使われている副読本「わたしたちのまち加西」に取り入れてほしい。初めて

歴史を学ぶ小学6年生にも最適だと思う。

答 新学習指導要領の中に、社会科指導を通して郷土愛を培い、先人の知恵に学ぶという目標があります。播磨国風土記の内容は、現在入っていませんが、学習指導要領の目標に合わせた教材として取り入れていけたらと考えております。提言を参考にして、人づくり、地域づくりにつながるよう検討します。

■その他の質問項目

- ・算数・数学における習熟度別授業
- ・補助金制度の見直し